

特別記事

危機管理産業展(RISCON TOKYO 2022)

テロ対策特殊装備展(SEECAT 2022)



東京ビッグサイトでは、『危機管理』をテーマにした総合トレードショー「危機管理産業展」と「テロ対策特殊装備展」を10月5日～7日の3日間、東京ビッグサイト西1・2ホールにて開催した。

本年18回目の開催となる今回は「防災・減災」「BCP・事業リスク対策」「セキュリティ」の主要3分野が大幅に出品が増加した。

さらに、逼迫している課題をテーマにした併催企画「危機管理DX・サイバー対策ソリューション」「危機管理ドローンソリューション」を新設。昨年から実施している企画展「感染症対策TECH」を加え、あらゆるリスクを網羅して情報発信した。

昨今の世界にて起こっている様々な危機的要素に対応するための一般人にとっても関心度の高い内容の展示が行われた。

<見どころ・注目ポイント>

1. 差し迫る喫緊の課題を併催企画としてピックアップ

併催企画として「危機管理DX・サイバー対策ソリューション」「危機管理ドローンソリューション」を新設。

企画展として「感染症対策TECH」を設置。With コロナ/After コロナに向けた新たな危機管理ビジネスを提案。

①危機管理DX・サイバー対策ソリューション▶<https://www.kikikanri.biz/target/dx.html>



②危機管理ドローンソリューション▶<https://www.kikikanri.biz/target/drone.html>

③感染症対策TECH▶<https://www.kikikanri.biz/target/kt.html>

2. 主要3分野にはセミナーと連動した特別テーマを設定。

国内唯一のテロ対策専門展も同時開催

①防災・減災 ～あらゆる災害に対応するための備え～

■特別テーマ「災害に強いまちづくり」「気象災害対策」「避難所・備蓄品/帰宅困難者対策」

②BCP・事業リスク対策 ～事業活動における様々なリスクに対処する～

■特別テーマ「緊急時ライフライン確保」「労働安全/保安用品」

③セキュリティ ～犯罪・事故から人・建物・設備を守る～

■特別テーマ「パブリックセーフティ」

④「テロ対策特殊装備展(SEECAT)」は関係者限定のクローズドショーとして同時開催。

3. 『危機管理』を体感する企画・イベント

会場では「首都東京の危機管理(東京都パビリオン)」「危機管理実演・体験コーナー」「予約制商談専用ラウンジ」「防衛省・東京消防庁・法務省矯正局による車両展示」などを実施。リアル展示会ならではの「体験」と「マッチング」を強化。

4. 展示と連動した多彩なセミナープログラム



防災・減災、BCP・事業リスク対策、セキュリティの特別テーマと連動したセミナーや日本の危機管理、世界情勢、DX推進・サイバー対策、ドローン活用など多彩なセミナー。

<セミナープログラム>(一部抜粋)

■基調対談「どうする日本の危機管理～ウクライナ問題で変わる世界の枠組み～」
ゲスト：中村 逸郎氏(筑波大学 名誉教授)
ホスト：志方 俊之氏(帝京大学 名誉教授)

■フリートークセッション「激動の世界情勢を語る～コロナ・ウクライナとその後の世界～」
ゲスト：山口 真由氏(信州大学 特任教授/ニューヨーク州弁護士) / 飯山 陽氏(イスラム思想研究者)

コーディネーター：板橋 功氏((公財)公共政策調査会)

■シンポジウム「首都東京の危機管理～関東大震災を振り返り、これからの東京に備える～」

パネリスト：原田 智総氏(東京都危機管理監) / 中林 一樹氏(東京都立大学名誉教授) / 久田 嘉章氏(工学院大学 建築学部 まちづくり学科 教授)

コーディネーター：中澤 幸介氏(株)新建新聞社 リスク対策.com 編集長)

SEECAT 公式 Web サイト
▶<https://www.seecat.biz/>



SEECAT 公式 Web サイト
▶<https://www.seecat.biz/>

出展者検索・一覧▶<https://www.kikikanri.biz/search/>



セミナー会場の様子



航空自衛隊員が退職自衛官の活用について紹介したブース

危機管理産業展 (RISCON TOKYO)2022/ テロ対策特殊装備展(SEECAT)



防衛省のブースで展示した輸送防護車(MRAP)と軽装甲機動車(LAV)

法務省矯正局特別機動警備隊
特別機動警備隊指揮官車

<特殊車両展示>

防衛省・東京消防庁・法務省矯正局特別機動警備隊による車両・装備品が展示され、普段は見ることのない特殊車両が集結した。

東京消防庁…VR防災体験車、EV救急車、ポンプ車、応急救護普及車

防衛省…輸送防護車 (MRAP)、軽装甲機動車 (LAV)、実演体験コーナーによる実演
法務省矯正局特別機動警備隊…特別機動警備隊指揮官車、レスキューキッチン、簡易トイレ、防護衣など

<東京都パビリオン>

■関係10機関により首都東京の危機管理を提案：東京都総務局総合防災部／東京都生活文化スポーツ局都民安全推進部／東京都産業労働局／東京都港湾局(サイバーセキュリティ担当)／東京都水道局／東京都下水道局／東京消防庁／(公財)東京都中小企業振興公社／警視庁／自衛隊東京地方協力本部

■(公財)東京都中小企業振興公社：ウイルス蔓延、ゲリラ豪雨、首都直下型地震など、東京は様々な災害の脅威に直面している。安全安心な都市はすべての人の願いである。そこで、当社では、都内の中小企業が開発した、都市の防災力を高める優れた製品の開発及び普及に要する経費の一部を助成する「先進的防災技術実用化支援事業」に取り組んできた。

このたび、本事業を利用して生まれた、中小企業による優れた防災製品をマーケットに訴求し、普及を後押しするために本展に出展。本年度は32社がパビリオン内にブースを構え、防災製品をPRした。(写真右下)

出展内容：先進的防災技術実用化事業を利用して実用化した防災製品・サービスの展示。ブース内ステージで出展企業による成果のプレゼンテーション。これまでに実用化した防災製品・サービスのカタログ配布(成果事例紹介)。公社事業紹介等。

▶<https://www.tokyo-kosha.or.jp/topics/riscon2022/>



■世田谷工業振興協会：防災・減災の特別テーマである避難所・備蓄品／帰宅困難者対策の製品として、当協会会員の有志5社が組合員となって設立した有限責任事業組合「ソーラーJPT」が共同で開発したソーラー避難誘導塔「AE-TOWER」(会えたわ)を紹介。



実物は、高さ9.2mの六角形のモニュメントのような形状で、限りなく長期間のフリーメンテナンスを実現できるという。▶<https://setagaya-ia.or.jp>



■川崎重工／カワサキモーターズ：ブースでは「SEPERNA®」システムの建物のBCP対策に適用した事例を紹介。当システムは災害時において外気の粉塵等を遮断しながら、室内の二酸化炭素の除去や酸素の供給を可能とし、人命確保に貢献するガス透過膜を用いた換気システムである。また、カワサキモーターズのブースでは、無人走行車両の多用途四輪車「MULE」を実機展示した。(写真下)



■クマヒラ：本展は、「パブリックセーフティ」「非接触・タッチレス」「自動化・無人化・セルフ化」がセキュリティのテーマとなっており、あらゆる場面の安全・安心に貢献する同社のセキュリティ製品を紹介した。また、パナソニックコネク(株)との共同開発製品である「クラウド鍵管理(SPLATS KEY)」をはじめ、「クラウド入退室管理(SPLATS PASS)」「AI画像解析システム」「ハンディ型液体検査装置(LSR-HN1)」「液体検査装置(LSR-M2)」ほか、各種セキュリティ製品「録画監視装置(SX-H3)」「鍵管理機 セキュアキーデポジット2」「入退室管理システム(GG-2)」などであった。



東京消防庁VR防災体験車の展示紹介



東京都中小企業振興公社の出展社コーナー

「危機管理産業展 2022 (RISCON 2022)」 「テロ対策特殊装備展 2022 (SEECAT 2022)」

神谷 直亮

東京ビッグサイトが主催する「RISCON 2022」と「SEECAT 2022」が、10月5日から7日まで東京ビッグサイト西ホールで開催された。会場では、危機管理、テロ対策に欠かせない衛星通信、セキュリティ業務に役立つ映像視認性向上システム、過酷な運用環境でも展開できるドローンなど多様な展示が行われていた。

まず、衛星通信の分野では、エーティココミュニケーションズ、日本デジコム、スカイネットワーク、TD衛星通信システム、ウッズの5社が出展して会場を盛り上げた。

「SEECAT2022」の会場にブースを構えたエーティココミュニケーションズ社は、超小型平面アンテナ「Satcube」と同アンテナを駆使する「Sat-Q VSAT」サービスの売込みに余念がなかった。ブースにはSATCUBE 本社の Robert Mellberg セールス・ディレクター、「Sat-Q VSAT」の衛星回線サービスを提供しているスカパーJSAT 社の担当者も応援に駆け付けていた。よく知られているが「Satcube」アンテナは、ノートPCサイズで重量わずか8kgと超軽量に仕上がっている。使い方については、据え置きタイプ、三脚に取り付けるタイプ、車のルーフに設置するタイプ、車のボンネットに置くタイプなどいろいろと考案されている。さらに今回のブースには、雨天時にアンテナを保護するテント、「SATCUBE」社特製の持ち

運び専用ケースなどのアクセサリ類も紹介されて関心を呼んだ。ブースに詰めていたスカパーJSAT 社の担当者は、「Sat-Q サービス」の最近の実績として、トヨタが6月18日、19日に開催した「Toyota GAZOO Racing Rally Challenge Cup in Yoshinogari」を挙げていた。伝送拠点は、佐賀県の東部に位置する神埼郡吉野ケ里町で、コンテンツは一般の公道を使って行われる「ラリーツーリズム・ラリーチャレンジ Rd.5」である。

「Satcube」に次いで目についたのは、ハイエース衛星中継車とニューテック製のモデムだ。ハイエース衛星中継車の特色は、ルーフに搭載された直径1.2メートルの「SWE-DISH DA120」アンテナと日本初を謳ったリチウムイオン電池式発電機である。今回出展されたニューテック製品は、放送用衛星モデム「MDM6100」で、DVB-S、DVB-DSNG、DVB-S2および次世代DVB-S2Xをサポートしている。

日本デジコムは、「RISCON2022」の会場に大きなブースを構えて、カイメタ社の「u8」、コブハム社の「EXPLORER710」、インテルサット社の「SATPACK 300」、SATCUBE 社の「Satcube」の4種の衛星通信アンテナシステムを出展して注目の的になった。さらに、インマルサット社の「IsatPhone2」、Iridium 社の「Extreme」、Thuraya 社の「XT-Lite」の3種の衛星携

帯電話を紹介して来場者の関心を呼んだ。

「u8」は、ソフトウェアによる電子ビーム・ステアリング技術を採用したKuバンド対応アンテナである。空気力学を考慮したフラットな薄型設計で、モバイルプラットフォーム用に売り込みが行われていた。寸法と重量を聞いてみたら「長さ、幅ともに89.5cm、高さ12.3cm。重量は5kg」とのことであった。「EXPLORER710」は、インマルサットの高速データ通信「BGAN HDR」サービスに対応する第4世代の最新鋭端末である。ブースの担当者は、「600kbpsの高速帯域保障型IPデータ通信も提供できる。また、2台同時接続で倍速化も可能である」と説明していた。「SATPACK 300」は、約40cm四方の平面アンテナと通信モデムが一体となったKuバンド対応製品である。通信速度に関する質問には「インテルサット社のFLEXMOVEを駆使すれば、上り3Mbps、下り10Mbpsを達成できる」と答えていた。日本デジコム社が、「Satcube」アンテナを展示していたのには少々驚いた。エーティココミュニケーション社が独占的に販売しているとばかり思っていたからである。ブースの担当者によれば、「国内向けではなく、海外向けの販売を主に請け負っている」という。

「IsatPhone2」は、防護性能IP64、対象衝撃性能IK04を装備し、連続待ち受け時間160時間の高性能バッテリーを採用したインマルサットの最新の衛星電話である。表示言語は、日本語、英語はもちろんのこと、フランス語、スペイン語など8か国語に対応している。「Extreme」については、死角のないグローバルカバレッジ、GPS位置情報サービス、緊急サポート用SOSボタン機能の統合といったワンランク上のサービス提供を強調していた。一方、「XT-Lite」に関しては、「電話機本体の価格が69,800円、月額4,400円プラス通話



写真1 エーティココミュニケーションズは、「Satcube」アンテナに加えて雨天時にアンテナを保護するテント、特製の持ち運び専用ケースなどのアクセサリ類を出展した。



写真2 日本デジコムは、カイメタ社の「u8」（向かって左）、SATCUBE社の「Satcube」（向かって右）など4種の衛星通信アンテナシステムを出展した。



写真3 ハイテクインター社は、マルチエンコーダ、マルチビデオウォールデコーダを使う多地点、多画面映像配信・再生システムのデモを行って注目を集めた。



写真4 ロボティックセンター・ジャパンは、「GRIFF 135」と呼ぶ遠隔操作型無人機を目玉にして出展した。

料」という低価格を前面に押しだしていた。

千葉市に本社を構えるスカイネットワーク社は、米国 AvL Technologies 社とカナダの iNetVu 社のアンテナ、カイメタ社の「u8」ターミナルをブースに並べて売込みに余念がなかった。AvL Technologies 社の「電動可搬型モデル 1.2m 1030」アンテナは、Ku、Ka に加えて X バンドにも対応できる設計になっており軍事用としても使える。iNetVu 社の携帯型「FLY-981」アンテナは、直径 98cm の Ku バンド対応鏡面ワンピース型に仕上げられてありセルフポインティングと自動捕捉ユニットが特色である。

TD 衛星通信システム (TDSC) は、「PLANET-BB」と名付けた衛星ブロードバンドサービスを売り込んでいた。インテルサットとスカパー JSAT 社が共同所有する「Horizons-3e」衛星を使用して「BCP」「ベーシック」「プレミアム」「ギャランティ」の4種のサービスを提供している。災害対策用の「BCP」プランは、「初期費用のみで月額利用料は不要。必要な時に1日単位で高速回線の使用が可能」と説明していた。「ギャランティ」プランは、言うまでもなく専用帯域保障、データ通信量制限なし、アンテナ設置台数の制限なしのサービスである。月額料金を聞いてみたら「別途お見積り」とのことであった。

さらに、TDSC は、Spectee 社と提携して、「Spectee Pro for TDSC」を今年11月から衛星でリアルタイム配信する準備を進めているという。Spectee が SNS の投稿を基に収集した危機情報を AI で解析し、ファクトチェックを行った結果を発生から1分で届けるというサービスである。

ウッズ社は、シンガポールの防衛システムメーカー、ST Engineering 社が開

発した衛星通信アンテナを売り込んでいた。今回紹介されたのは、「Flat Panel Manpack」「A480 Comms-On-the-Move」「A1000 Triband Palaboric Manpack」「4.0m Trailer Mounted Mobile Earth Station」の4種である。「Flat Panel Manpack」は、Ku バンド対応の超小型平面アレイアンテナで、才数は長さ 42cm、幅 26cm、高さ 10cm、重量はわずか 8kg である。

次いで、EIZO 社がセキュリティ業務に役立つ映像視認性向上システム、ハイテクインター社が防衛省での運用に最適多地点映像配信システムを出展して関心を買った。

EIZO 社の映像ソリューション部は、独自の技術を搭載したボックス形状のシステムを駆使するデモを実施していた。モニターの左半分に補正なし、右に視認性向上システムを使った補正ありの画像を示してその違いを確認させるという念の入れようであった。ブースの担当者は、「人の目で確認を行う場合は、監視者の検知率がアップする。AI 検知を導入している場合は、AI での異常検知がしやすくなる。特に夜間監視や暗部確認に役立つ」と説明していた。

ハイテクインター社は、マルチエンコーダ「Zio S2004」とマルチビデオウォールデコーダ「Galileo」を使って多地点、多画面映像配信・再生システムのデモを行って注目を集めた。アナログ

から 4K 高画質までの複数の映像ソースを同時に取り込み監視することができるのが特色である。

さらに目に付いたのは、多種多様なドローンの展示であった。今回出展したのは、日本海洋、ネクシス光洋、ロボティクス・センタージャパンなど8社に及んだ。

日本海洋は、「SWAT 仕様の突入ドローン」を紹介して関心を買った。高度 12m から落下しても壊れない強靱性を誇り、屋内ドアを押し開けガラスを破って屋内に突入する機能を搭載している。

ネクシス光洋は、「SkyRanger R70」と呼ぶ Teledyne FLIR 社製のマルチミッションドローンを出展した。機体にカーボンファイバーとマグネシウムを使った堅牢性と耐久性を誇る軍事規格の製品である。ブースの担当者は、「自律性と最新の AI を駆使する空飛ぶスーパーコンピュータに仕上がっている」と売り込んでいた。運搬できるペイロードの重量を聞いてみたら「最大 3.5kg」との回答であった。

ロボティックセンター・ジャパンは、航空規定に準拠したドローン「GRIFF 135」と遠隔操作型無人潜水ドローン「Pivot」を目玉にして出展した。「GRIFF 135」は、最大積載量 30kg で産業用に特化している。「Pivot」は、4K ウルトラ HD ローライトカメラを搭載しており、水深 305メートル、視界範囲 280 度まで撮影ができる。

Naoakira Kamiya
衛星システム総研 代表
メディア・ジャーナリスト

ハイビジョン伝送・災害・報道・海外派遣



<SATCUBEアンテナの特長>

- 47cm x 30cm x 5.5cm ビジネスバッグに入ります!
- SCPCモデル・Sat-Qモデル・各種あり
- 災害/報道/海外派遣映像音声伝送インターネット接続/ハイビジョン伝送可能
- わずか1分で通信可能組立不要・工具不要
- 衛星捕捉は内蔵ディスプレイのアシスト機能で素早く簡単
- 航空機持込可能バッテリーで運用可(約3時間運用可能)
- 運用中のバッテリー交換可(ホットスワップ対応)
- モバイル中継装置(TVU・Live U・スマテレ等)と連携可

SATCUBE

「驚愕の超小型平面アンテナ!」

スタンダードなSCPCでのSNGモデルに加え2020年7月に新しくスタートしたスカパーJSAT社の新サービス「Sat-Q」モデルもラインナップ。お客様の運用にマッチした利用が簡単にできます。放送などのHD映像伝送・災害通信・海外通信・企業のBCP向けなど幅広く利用可能です。

Communications k.k. エーティコミュニケーションズ株式会社

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-55-14
TEL: 03-5772-9125 <http://www.bizsat.jp>